ボーリング柱状図

調　査　名　次源田池地質調査業務委託

事業・工事名

ボーリングNo										

シートNo

ボーリング名	No.1	調査位置	福岡市南区筑紫丘2丁目地内					北緯	
発注機関	福岡市道路下水道局建設部河川課			調査期間	平成 27年 11月 20日 ～ 28年 1月 24日			東経	
調査業者名	新日本グラウト工業株式会社 電話（092-511-8981）	主任技師	市坪　天士	現場代理人	碓井　敏彦	コア鑑定者	碓井　敏彦	ボーリング責任者	渡部　義人
孔口標高	14.76m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平0° 90° 0°	使用機種	
総掘進長	8.00m								
試錐機	東邦地下製　D-0型	ハンマー落下用具	半自動貫入試験器						
エンジン	ヤンマーNS90C	ポンプ	東邦地下製　BG-3型						

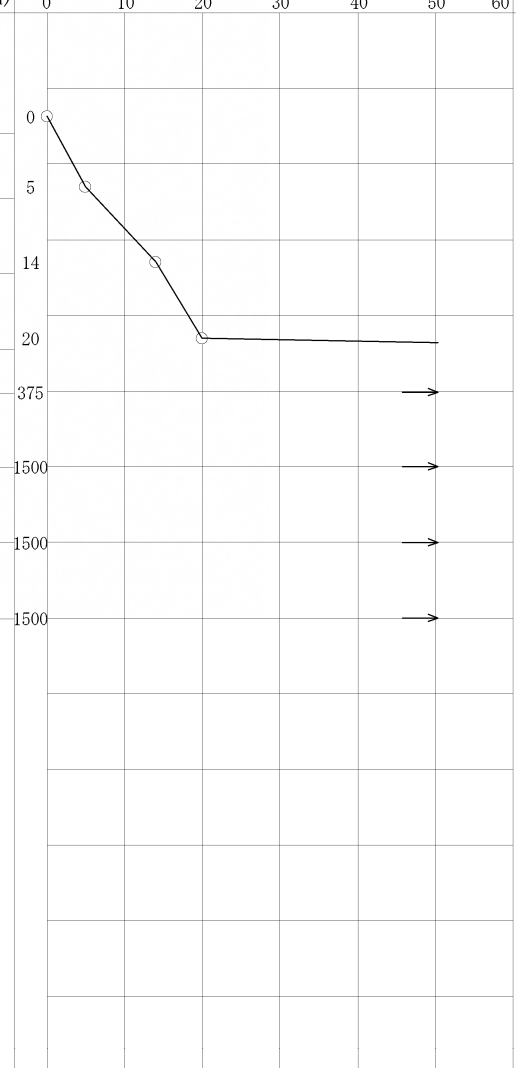
標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事
	14.46	0.30	0.30		表土	黒灰			草根混じりの腐植土。
	14.11	0.35	0.65		改良土	暗灰			セメント系固化材による改良土。草根が混じる。
1 2	12.36	1.75	2.40		腐植土	黒灰			上部0.3mは暗灰、以下は黒灰となる。 草根混じりの粘性土である。
3 4	10.26	2.10	4.50		礫混じり砂	暗灰			凝灰質の砂質土で、所々、粘性土の薄層を挟在する。 深さ2.4～2.60mは青灰色の細砂と粘性土。深さ2.60m～2.90mは粗砂。 深さ2.9m以深は中～細砂で褐色の薄層が挟在される。 全体に淘汰が悪い。
5 6 7 8	6.76	3.50	8.00		粗粒砂岩	茶灰			上部0.5m区間は風化により礫質土状となる。 全体にL=20cm内外の棒状コアを主体とする。 全体に風化し褐色化するが、岩質は硬質となる。
9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19									

孔内水位(m)／測定月 12/22 0.90

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量(cm)
1.15	ハンマー自沈			0／45
1.60	1	2	2	5／30
2.15				
2.45	4	4	6	14／30
3.15				
3.45	4	6	10	20／30
4.15				
4.45	50／4			50／4
5.00				
5.04	50／1			50／1
6.00				
6.01	50／1			50／1
7.00				
7.01	50／1			50／1
8.00				
8.01				

N　値



原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験（　）	掘進月日
0.90	T-1	Ⓣ	物理試験・力学試験	12/21
1.70				12/22